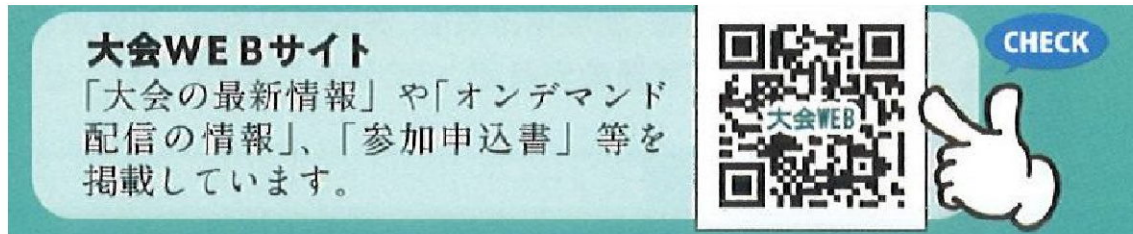


第44回全国公民館研究集会および第62回関東甲信越静公民館研究大会
茨城大会参加報告

1 大会概要

詳細は、下記QRコードより、大会WEBサイトをご参照ください。

(大会WEBサイトより、全体会および各分科会を視聴することができます。)



2 全体会（開催県事例発表）

(1) タイトル 「～人生100年時代～「かさま志民」への学びの場を」

(2) 事例発表者 ^{よこた}横田 ^{しげみ}繁稔氏（笠間市立笠間公民館 館長）

(3) 事例発表

ア 笠間公民館の取り組み（※優良公民館表彰最優秀館賞受賞）

○かさま志民大学, かさま子ども大学, サマースクール, かさまオンライン講座, 学校支援ボランティア養成講座

(目的) ・「志」を持つ市民や児童が生涯を通して学ぶ

(内容) ・SDGsの目標を設定した多様な学習コースの提供

・夏休みの体験活動や学校での子どもたちの教育のサポート活動

・オンライン配信を活用した多様なコンテンツの配信

(方向性) ・SNSの活用やオンライン講座のコンテンツ充実など、デジタル化社会に対応できる内容の充実を目指す。

(4) 所感（受講ポイント）

・市民ニーズの把握と講座への参加が難しい世代を考慮したオンライン配信など多様な学習環境の提供が重要だと感じた。

・地域のボランティアと子どもたちの交流が、互いに信頼関係を結ぶ相乗効果を生み、地域の絆の輪を広げていくことにつながると感じた。

3 分科会（事例発表）

〈第2分科会〉課題解決のための連携・協働

(1) タイトル 「学校や地域住民など多様な主体と連携した公民館講座・イベントづくりについて」

(2) 発表者 ^{べっぶ}別府 ^{たくじ}拓自氏（寒川町民センター 館長）

(3) 事例発表

ア 寒川町公民館の取り組み

○子どもフェスティバル, 楽器体験しよう! with 寒中吹奏楽学部, 子ども科学教室, 親子でホテル観察会, だがしや楽校, 大学等の講師派遣事業

(特徴) ・地域の学校や団体との連携, 企業や大学の出前授業等との共催

(内容) ・子どもが主体となり, 互いに教え合う事業の企画・実施

- ・地域団体のプロジェクトや地域人材発掘事業の実施
- ・各大学や企業等の出前事業・助成事業を活用した事業の実施
- (方向性) ・多様な主体と連携し、互いにWin=Winとなる関係の構築
- ・新たな学習メニューの企画による、講座の新規参加を促進する。
- (助言) ・社会教育を基盤とした地域づくりの好事例
- ・子どもや地域住民の自主性や主体性を育む先駆的な取り組み
- ・オンライン配信や地域課題が主の事業による学びの機会の発掘

(4) 所感（受講ポイント）

- ・多様な主体との連携は、事業の幅が広がり、有意義なものとなると感じた。
- ・宇都宮市でも気軽にサークル活動を体験できる取り組みを一部で実施しているが、更に広がっていいのではないかなと思う。
- ・子ども主体の事業は、互いに楽しみながら学び、交流へとつながるが、事業実施には、学校が抱える課題の把握など、常に情報交換が重要と学んだ。

〈第5分科会〉地域住民が運営（参画）する公民館・市民センターの最前線

(1) タイトル 「豊かな地域資源を生かした持続可能な地域づくり」

(2) 発表者 きのうち けんじろう 木之内 健治郎氏（鹿嶋市立豊郷公民館 館長）

(3) 事例発表

ア 鹿嶋市立豊郷公民館「北浦一周歩く会」の取り組み

- (目的) ・子どもたちの思い出作りやチャレンジする気持ちの育成
- ・大人の子どもの見守る意識の醸成や地域住民同士の輪の拡大
- ・豊富な地域資源を生かした事業による子どもの地域愛の醸成
- (内容) ・地域内の湖岸を子どもと大人がごみを拾いながら徒歩で一周し、参加者が完歩できるよう地域ぐるみで支援
- (方向性) ・本事業で育まれた人の輪を活かし、地域への興味・関心を向上させ、持続可能なコミュニティづくりにつなげていく。
- (助言) ・地域で過ごした楽しい体験や思い出を共有する社会教育の観点でのまちづくりが実践された好事例

(4) 所感（受講ポイント）

- ・地域資源を生かしながら、世代間交流を行い、地域愛も醸成している点が素晴らしいと感じた。

4 全体を通しての所感

- ・多数の事例紹介から、日頃から各所と情報交換を行い、市民ニーズに常にアンテナを立てておくほか、オンライン配信など、講座への参加が難しい世代を考慮した多様な学習環境を提供していくことは、今後さらに必要になると感じた。
- ・多様な主体との連携した講座や、地域の大人と子どもたちの世代間交流を軸とした講座を実施することは、事業の幅だけでなく、地域住民同士の繋がりや市民の興味関心まで広がっていくことを改めて実感した。
- ・子どものうちから事業を通して地域を知り、楽しみや思い出を共有することが、地域への愛着へ繋がり、新たな地域の担い手を育成すると感じた。
- ・公民館の新規利用を募るには、市民がサークル活動などを気軽に体験し、趣味や余暇の興味の幅が広がっていく体制を整えることや、世代に合わせた新たな学習メニューの検討が必要であると学んだ。

分科会日程

12:30~12:50	オープニング
13:00~13:50	事例発表A(コードが1A、2A、3A、4A、5Aの発表)
14:00~14:50	事例発表B(コードが1B、2B、3B、4B、5Bの発表)
15:00~15:50	事例発表C(コードが1C、2C、3C、4C、5Cの発表)

分科会テーマ・助言者	タイトル・事例発表者 *敬称略	コード
第1分科会 地域活性化と公民館 さかもと のぼる 坂本 登 (茨城県生涯学習・ 社会教育研究会 副会長)	◆山梨県 「ふるさとの魅力再発見!地区公民館を拠点にした歴史散歩」 杉本 悠樹(富士河口湖町教育委員会生涯学習課文化財係 係長)	1A
	◆栃木県 「地域の熱い想いをカタチに~郷土愛を育む取り組み~」 湯沢 義久(宇都宮市市民まちづくり部河内生涯学習センター 所長)	1B
	◆群馬県 「公民館における地域学校協働活動~学校を核とした地域づくりを目指して~」 山岸 雅彦(館林市大島公民館 館長)	1C
第2分科会 課題解決のための 連携・協働 かねふじ ふゆ子 (文教大学 人間科学部 教授)	◆神奈川県 「学校や地域住民など多様な主体と連携した公民館講座・イベントづくりについて」 別府 拓自(寒川町民センター 館長)	2A
	◆東京都 「大学との連携~学び合いを支える実践力を培うCLC講座~」 伊東 静一(東京都公民館連絡協議会 顧問)	2B
	◆千葉県 「公民館と民間企業の連携で見えた可能性と、今後考えていきたいこと」 今井 雄生(上総地域交流センター 社会教育主事 兼 上総公民館 公民館主事)	2C
第3分科会 近未来の課題と公民館 さかい ともじ 坂井 知志 (デジタルアーカイブ学会 理事)	◆埼玉県 「SDGs 子どもたちが考える未来~すごろくゲームの製作を通して~」 小野寺 尚子(川越市教育委員会教育総務部中央公民館 副主幹)	3A
	◆新潟県 「Withコロナに向けた公民館の取り組み」 村山 明(新潟市中央公民館 館長補佐)	3B
	◆長野県 「教育による持続可能な遠山郷へ~小さくてもキラリと光るここで暮らす遠山家族~」 宮田 浩司(飯田市南信濃公民館 主事)	3C
第4分科会 地域や団体が設立・運 営する「たまり場公民 館」は既存の公民館に 何を教えてくれるのか なかじま みなこ 中島 美那子 (茨城キリスト教大学 教授)	◆茨城県筑西市 「五感直感・たまり場賛歌」 小松崎 登美子(たまり場・たろう 主宰者)	4A
	◆茨城県つくば市 「多世代、多文化、他地域交流の魅力」 飯塚 洋子(NPO法人華の幹 代表理事)	4B
	◆茨城県大子町 「地域課題に取り組む、大工集団の挑戦! ~豊かな自然の中で育まれた文化や子どもたちを未来へつなぐために~」 菊池 均(大子町大工グループ樹輪 代表)	4C
第5分科会 地域住民が運営(参画) する公民館・市民セン ターの最前線 いとう まきこ 伊藤 真木子 (青山学院大学 准教授)	◆茨城県稲敷市 「地域住民の参画の方法としての公民館運営企画委員会」 北見 浩子(稲敷市桜川公民館 係長)	5A
	◆茨城県鹿嶋市 「豊かな地域資源を生かした持続可能な地域づくり」 木之内 健治郎(鹿嶋市立豊郷公民館 館長)	5B
	◆茨城県守谷市 「市民の活動拠点 守谷市民活動支援センターを知る」 高橋 真美(守谷市民活動支援センター センター長) 古橋 俊夫、高木 保(もりや市民大学 運営委員)	5C

宇都宮市河内生涯学習センター



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

●本センターでは、地域住民の学習意欲の高揚と生活の向上に資する事業の推進、家庭教育支援の充実と地域連携・協力した教育活動の推進、地域理解を促進する講座と学んだ成果を活動につなげる仕組みの充実を重点項目として講座を企画している。こうした中、学んだ成果を活動につなげる仕組みの充実を図るため、新たな取組の一つとして地区の中学校と連携・協力を図りながら企画した講座を開催した。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【いきいき河内発見講座（地域資源を活用したまちづくり）】

●地域資源を活用し、若年層をはじめ、幅広い世代の多くの住民が今一度自分の住むまちに“目を向ける”、“関心を高める”さらには“誇りを持つ”郷土愛の醸成を目的とした講座。

●古里中学校で昨年度、新型コロナウイルス感染症によって中止になった職場体験の代わりに、地域の良さをPRするリーフレット作成。精力的な取材で地域への理解を深めた。

●古里中学校での取組が本センター講座の趣旨である“郷土愛の醸成”と重なったことから、中学校や地域団体と連携を図りながら、共同で講座を開催。

●古里中学校でグループ毎に作成したリーフレットを同校関係者で選考し、入選した5グループを講師として招き、内容を発表。

●今後も地区の産業や豊かな自然、人材など地域資源を活用した事業を構築し、地区内にある3中学校の学生交流や仲間づくり、地区の未来を拓くたくましい河内子（かわちっこ）の育成に向け、取り組んでいく。

【河内地区ガイドブック「かわち」発行】

●河内地区まちづくり協議会楽しいプロジェクトガイドブック編集委員が中心となり、河内地区のあゆみや文化財、自然などについて、まとめた河内地区住民向け情報紙を発行



●「いきいき河内発見講座」中学生がどうしても伝えたい「かわち」の魅力の模様
市民センターに隣接する古里中学校の3年生が講師となり、地域住民を対象に講座を開催。



河内地区ガイドブック「かわち」

3. 取組による成果や効果

【いきいき河内発見講座(地域資源を活用したまちづくり)】

●地域の歴史や文化、地域の情報等の講座においては、高齢者のみの参加であったが、40代、50代など幅広い年齢層の参加につながり、定員いっぱいの約50人の受講者を集めた。

●中学生が直接現場を取材して作成したPRリーフレットを活用し、寸劇やクイズ等を織り込み地域の資源を分かりやすく工夫しながら説明したことで多くの参加者から高評価をいただいた。また、PRリーフレットは、これから河内地区の住民になる方々へにまちの魅力を発信するための有効なアイテムとなる。



入選したPRリーフレット

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

●参加者にアンケートを実施し、講座自体の評価、多様な意見等を踏まえながら、検証・改善を行っている。

●協力団体においてもヒヤリングを実施し、検証・改善を図っている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

身近な生涯学習の拠点として様々な学習活動やまちづくり活動を支援するとともに、社会環境が急激に変化する中において、社会の要請に対応する事業や人間力の向上、家庭・地域の教育力の向上に資する事業に取り組んでいる。



サギソウの鉢植え講座

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

●地域の魅力を発見できる事業の充実を図る。

●地域の人材等を活用した講座を実施するとともに、地域で活躍できる人材の育成に努める。

●仲間づくりや交流の場を提供し、人と人の絆づくりを推進する。

●人間力の向上や家庭教育力の向上に資する事業を積極的に展開する。



河内地区 地域ビジョン